



うたとことばとの結びつき

気分で聞きつけたことばを大事に書く

森田ミサ子ほか

1. 指導案

- 一、日時 昭和五十三年八月五日午前九時～十時
- 二、児童 大分県別府市立西小学校 一年一組（森田綾）
男子二十二名、女子二十一名、計四十三名
- 三、領域 音声言語
- 四、授業テーマ 気分で聞きつけた言葉を、だいに書く。
- 五、授業テーマについて（単元設定の理由）

ことばは、音声である。言い換えると、心象の音声化が、ことばであると考えられる。人が、うれしい時、うれしい声を出し、かなしい時、かなしい声を出す。これが、ことばであり、この心身発達にともなう音声調整と自覚を育てていくことが、国語教育の根幹であり、主流でなくてはならない。

私たちは、ふつう、日常会話で、自分の心象をあらわす時、「あーあ、くたびれた」というが、その「あーあ」という音声の中には、その人の感情が、そのま

ま出ている。その「あーあ」という音声で、私たちはくたびれた声として、とらえるのである。私たちが、その音声を聞き分けている個所を指摘し得るものに、「あーあ」という長音、「くたびれちゃった」というような拗音、促音、撥音などの表記をあげることができる。こうした特徴を示すものに童謡がある。日常の心象表現の残像を手がかりに、その感情を伝えようとするからである。

そこで、今回は、童謡を聞いて、その童謡の中で心象表現に振幅のある個所に、ポイントをしぼり、そこをどう聞きとっているかを子どもたちに表記させる。文字言語は、本来、音声言語の投影である。できるだけ、聞きとったニュアンスを文字化しようとするか、あるいは、聞きとったニュアンスとは関係なく、約束に従って文字化を考えるか、文字習得期にある就学年令児の重大な教育課題であり、岐路であると思うので取り上げた。

指導者の態度としては、精神肉体の発達としての音

声の文字化を心がけさせたい。

六、指導計画（一時間扱い）

- 童謡を用い、できるだけ聞きとったニュアンスを文字化する。また、約束に従って文字化する。
- 七、本時目標 気分で聞きつけた言葉を、だいに書く。
- 八、本時の展開

学習活動（指示と発問）

指導上の留意点

- | | |
|-----------------------------------|--------------------|
| 1 「これからレコードをかけます。レコードにあわせて歌って下さい」 | ○「月」のレコードをかける。 |
| 2 「どの子も、みんなはつきり、声をだして歌って下さい」 | ○レコードと、一緒に歌わせる。 |
| 3 「今、歌ったうたを書いて下さい」 | ○オルガンの伴奏にあわせて歌わせる。 |
| 4 「自分が書いたうたを読 | ○短冊に、鉛筆で書かせる。 |
| | ○挙手して発表させ |

める人に、読んでもらいいます。	る。
「す」	○歌うのではなく、文章として読むことを区別させる。
5「自分の書き方と違っていると気づいた人は、発表して下さい」	○表記のちがう短冊を比べさせる。 Aでた　でた　つきが Bでえたあ　でえたあ　つきいがあ
6「特に、今度は＼かくれんぼ＼の歌をBのように、声に出して歌って、耳に残っているとおりに、書いて下さい」	
「では、まず、レコードと一緒に歌ってから考えてみましょう」	
「どの子も、みんな、はっきり、声を出して歌って下さい」	○「かくれんぼするもの　よっといで」 「もういいかい」 「まあだだよ」のところのみを、何度か部分練習する。
7「＼かくれんぼするものよっといで＼を、今、声に出したとおりに書きなさい」(Bの書き方で)	○これは、読ませないで、短冊に書かせるだけで、机の上においておく。(あとで使う)
8「＼もういいかい。まあだだよ＼を、今、声に出し	○Bの書き方であることを教える。

て、耳に残っているとおりに書きなさい」	て、耳に残っているとおりに書きなさい」
9「自分が書いたのを読める人に、読んでもらいます」	○挙手して、発表させる。
10「自分の書き方と違っていると気がついた人は、発表して下さい」	○二／三人指名 ○表記の違う短冊を比べさせる。 A「も　もいいかい。 まあだあ　だよお」 B「もういいかい、まだだよ」 ○文例「もういいかい」「まだだよ」
11教師と児童との音調の呼応をする。	
12児童間での呼応ができるかどうか試みる。	
○「も　　いい　　かあい」 exまだ	
○「もう　　いいかい」exまあ　　だよ。	
13「さっき書いた＼かくれんぼするもの　よっといで＼の＼よっといで＼というのは、どういうことですか。	○「よっといで」という意味が「よっておいで」の集約語であることを、どれほどわかっていいるか確認するにとどめる。 特に、「よっといで」と書けている子、書けていない子、それぞれに質問する。
14「＼くつがなる＼の歌を歌いましょう」	○部分指導 おーてーて、つーな

15「＼おおてえてえ＼では意味がわからなくなってしまうね。わかるように書くには、どう書けばよいでしょう」	い　　で のーみーちーをゆーけーば ○おおてえてえと書いたら、意味がわからなくなってしまうので、どこをどう訂正することによってわかるようになるか、訂正を試みる。 ○おおてえてえを板書する。 ○むずかしい時は、先にあげた「よっといで」を用いて、練習をする。
16「よっといでを使って練習してみましょう」	
17評価をする。	

2. 授業記録

△あいさつ△
 Tm はじめに、レコードをかけますから、それを聞いて、大きな声で、歌って下さい。何の歌かな？
 △＼月＼のレコードをかける△
 △子どもたち、歌う△
 Tm みんな、知ってる？
 C 知らない。
 Tk みんな、目をつぶってごらんさい。なんか、音が聞こえてくるかな？
 C こうやる。あー、聞こえる。ミーミーン。せみの声。
 Tk はい、目をあけてみて下さい。今日はね。こういう

うふうに、よく耳を使ってもらいたい。どんなふうに、音が聞こえてくるかな、ということを考えてもらいます。

今、レコードを聞いたでしょ。このうたみんなでおぼえちゃいましょう。その後みんなで、お勉強していきましょう。おぼえられるかな。

C 音楽みたい。

(音を使うと、何でも、音楽の勉強という固定概念があるように思う)

へ”月”のうたを練習し、歌うへ

Tk すぐく、うまく出来たからね。これ、机の上にあるでしょ。

へ白紙のカードを示すへ

Tk これにね。今、歌ったおうたをね。書いて下さい。

C ひえー。

Tk 書けるかな？

C 書ける。

Tk 頭の中でね。歌いながら書いて下さい。今のうたをね。では、書き始めて下さい。

へ子どもたち書くへ

(子どもたちは、あまり苦勞なく、書いていたように思う)

Tk 出来た人は、ちょっと手をあげて下さいね。忘れちゃったところは、いいですよ。憶えているところだけで、いいですよ。一枚の紙に書いて下さい。

へオルガンで節を二回ひくへ

Tk 書けたよー、っていう人、ちょっと手をあげてね。

Tk へ子どもたち、口の中で、歌いながらやっているへ
がなばってねー。最後まで書けなくてもいいよ。

憶えているところだけで：

Tk まだ書いている人、いるかもしれないけどね。ち

よっと、練習だからね。他の人がどんなふうに書いているか、見てみましょう。

C えっ？

Tk 読んでもらいます。みんなの書いたのを：

へ何人かの短冊を書きうつして、黒板にはるへ

(この時、選んだ短冊は、みんな違う書き方をしているものを選んだ。特に、うみ字の入っているもの、いないものの、違いのあるものを選ぶ)

へ板書へ

①

でた でた つきが
まあるい まあるい まんまるい
ぼおんのような つきが
(なおこ)

②

でた でた つきが
まあるい まあるい まんまるい
ボールのような つきだ
(まさこ)

③

でた でた つきが
まあるい まあるい まんまるい
ぼうるのような つきが
(ともみ)

④

でた でた つきが
まあるい まあるい まんまるい
ぼんのような つきが
(ながい)

Tk 直子ちゃん、直子ちゃんの書いたから、読んでみて下さい。

Tk 直さん、読んでー。

Tk みんなに聞こえるように。

へ直子、もじもじするへ

Tk 直子ちゃん、読めないの？じゃあ、直子ちゃんの

かわりに読めるっていう人。じゃ雅子ちゃんに、読んでもらおうかな。直子ちゃんのを、読んで下さい。

雅子 でたでた月が、まあるい、まあるい、まんまるい、ぼーんのような、月が。

へ雅子、歌ってしまおうへ

(読んで下さいといっても、うただと、メロディーが優先してしまわしく、なかなか読めない。自然に入ると、歌は、文字というより、音の並びの感覚の方が、子どもたちの身についているように思う)

Tk どうか。雅子ちゃん、とっても上手に読めたんだけど、おうたを歌っているみたいだったね。ちょっとね。おうたを歌っているみたいじゃなくって、

この字を読むように、もう一度、読んでみてくれる？

雅子 でた、でた、月が、まあるい、まあるい、まんまるい、ぼーんのような月が。

へ雅子、読むへ

(読むとき、一呼吸してから、行なわないと出来ないようである)

Tk よく読めたね。今の読み方、どうか。直子ちゃん、今の雅子ちゃんの読み方がいい？ じゃ、他の人のを、今度読んでもらおうかな。じゃあ、雅子ちゃん、今度は、自分のを読んでちょうだい。

雅子 でた、でた、月が、まあるい、まあるい、まんまるい、ぼーんのような月が。

へ雅子、読むへ

Tk これが、雅子ちゃんのね。

Tk ともみちゃんの、ともみちゃん読んで下さい。

ともみ でた、でた、月が、まあるい、まあるい、まんまるい、ぼうるのような、月が。

へともみ、読むへ

Tk ちよっと、これね。三つ、くらべてみて下さい。

へともみ、読むへ

Tk ちよっと、これね。三つ、くらべてみて下さい。

みんな同じかな？

Tk C 直子ちゃんのだけ、違う。

Tk C うん、直子ちゃんのだけ、違う。じゃ、よう子ちゃん。

よう子 ぼおんのようなっていうところです。

C そうです。

Tk C ここどこ？

ぼおん（直子）
ポール（雅子）
ぼうる（ともみ）

Tk だれとだれが、同じかな。

佐藤 雅子ちゃんと、ともみちゃん。

Tk 雅子ちゃんと、ともみちゃん、同じだって。

C いいです。

Tk C じゃあね、同じうたなのね、書き方はどうですか。

C ちがう。

Tk C さっき、歌ったうた、ひとりひとり違って歌ってたの？

へ子どもたち、くびをふるへ

Tk C みんな、同じに歌っていたのに、書いてみると、違うでしょ。

今日は、こういうふうな、お勉強をします。みんな、同じように、歌っているんだけど、書いてみると違う。どこが違うかな、っていうところをさがしながら、やってみよう。いいですね、ひとつ見つけたね。

C うん。

Tk C ぼーんと、ぼーる、ひとつ見つけたね。もうひとつ、あげてみよう。

へ永井のカードを示すへ

Tk C 永井君、いるかな？ じゃ、永井君読んでみてよ。

永井 でーた、でーた。

へ永井、うたうへ

Tk C 歌うようじゃなくて、読むように。

永井 デタ、デタ、月ガ、マルイ、マルイ、マンマルイ、ボンノヨウナ、月ガ。

（永井君は、歌うから、読むのに、すぐに切り換えることが出来た。そして、この読み方には、スピードがある）

Tk C また違うね。どこが違う？

C ボンの、っていうところ。

Tk C ボンの？

C そうです。

Tk C ちよっと、これ、見て下さい。直子ちゃんの方はなんて書いてある？

ぼおん（直子）
ぼん（永井）

Tk C 直子ちゃんの方は、なんて書いてある？

C ぼおんの。

Tk C 永井君の方は？

C ぼん。

Tk C どこが違うの？

Tm C じゃ、まみちゃん。

まみ 「お」と「ん」が、違う。

Tk C でも、こっちにも、「ん」があるよ。

へ永井のを、さしてへ

まみ でもね。あの、ぼおんときは、下についている。

Tk C じゃ、何が、多いんだろう。

まみ あのね。永井君の方は、真ん中に「ん」がついているけどね。直子ちゃんの方は下にしている。

（単に文字的な指摘に、とどまる）

Tk C 「ん」が、下についている、赤印のついているところが、ありますね。

へ指摘の、違うところに赤印をつけるへ

Tk C じゃ、くらべっこしてみましょう。

C ぼん。

C ぼおん。

Tk C 何が、違うの？ 「ん」が、両方とも、ついてるね。でも、どこが、違うの？

（文字の違いばかりに目がいき、それが、自分の音声と結びつかず、違いを発見できないようであるから、質問をくりかえした）

C 直子ちゃんのところには、「お」がある。「お」がね。永井君のところは、ないけどね、直子ちゃんの方は、ある。

Tu C よくわかった。直子ちゃんは、読むのはいやだったんだっけね。だけど、歌うのはすきだったね。直子ちゃん、独唱して下さい。それから、永井君、永井君も、独唱して下さい。

直子 でた、でた、月が、まあるい、まあるい、まあるい、ぼおんのような、月が。

へ直子、歌うへ

Tu C 直子ちゃん、上手でしたね。赤字がついているところ、どう歌っているか、よくみてね。じゃ、次、永井君、歌って。

永井 でた、でた、月が、まあるい、まあるい、まあるい、ぼおんのような、月が。

へ永井、歌うへ

（永井君は、ぼおんのようなと、歌ってしまい、うた

につられて、自分の書いたのと、違ってしまった)

Tu さあ、どうだった? 直子ちゃんが「ぼおん」のようになっていったところ、「ぼおん」のようになって歌ったね。永井君も、あそこをどう歌った?

C ぼおん。

Tu そこ、もう一度やって、赤いところだけ。

永井 ぼん。

〈歌う〉

C わー。

〈みんな、大笑い〉

Tu たのしかった。みんな、違い、わかった?

C わかった。

「ぼん」と、ことばで、いつてみて、永井君は、初めて、自分が書いたものと、自分の音との違いを見つけたのだと思う。クラスの子どもたちも、音声と、あらわされた文字との関係が、やっとわかってきたように思う。ここで、やっと、今日の授業で、何をやるうとしているのか、ということが、わかったようだ)

Tu もう一度、永井君、おねがい。

永井 ぼんのような。〈歌う〉

直子 ぼおんのような。〈歌う〉

Tu あー、違っていたね。わかったね。

C 直子ちゃんの方が、上手。

Tu さあ、みんなで、歌おう。自分は、どっち歌っているかなって、自分の声聞きながら、歌うの。

〈全員、合唱する〉

Tu さあ、どっちだったかな。

「ぼおん」のところをさして

〈みんな、歌う〉

Tk こんなふうだね。自分で、歌ったとおりに書いて下さい。次のうたを、おぼえて、書いて下さいね。

Tk 次は、「かくれんぼ」のうた。

C おっ!

「かくれんぼ」のうたと言ったとき、みんな、よく知っている歌であり、親しみがあるらしく、身をのり出した。それは、単に親しみがあるだけではなく、その中に、子ども、生の会話のことばが含まれているから、喜んだと言っても、良いだろう)

「かくれんぼ」全員で合唱。「かくれんぼ」のもの、よっといで」と「もういいかい、まあだだよ」の二ヶ所を、よく練習する

Tk とても、上手でした。では、また、新しい紙を出して下さい。「かくれんぼ」のもの、よっといで」

というところ、あったね。そこだけ、書いて下さい。今度は、お願いが、ひとつあります。自分の歌った音、ことば、そのとおりに、なるべく、歌ったように書いて下さい。わかりましたか。歌ったようにだから、だれみたいな書き方かな? 直子ちゃんかな、永井君かな? どっちかな?

〈と、黒板を指す〉

(ここを、何回も念を押すように言う。何故ならば、今日のテーマは、歌ったように書くことが、まず、第一のねらいだからである)

C 直子ちゃん。

(他の人のを基準に、自分が何をすればよいか、わかっていようである)

Tk 直子ちゃんのような書き方で、書いて下さい。

C なんて書くの?

Tk 「かくれんぼ」のもの、よっといで」まで、書いて下さい。〈歌って、示す〉

〈五分位、書く〉

Tk そして、それは、机の横において、今度は、別の

を書いてもらいます。

Tk 「もういいかい、まあだだよ」のところを書いて下さい。〈歌って示す〉

これも、歌うように書いて下さい。

〈三分位、書く〉

Tk 黒板を見て下さい。

① もい かい まあだだよ(ともみ)

② もい かい まだだよ(ようぞう)

③ もういいかい まだだよ(まさとし)

さつきと同じように、読んでもらいます。

まさとし 君、いいですか。

まさとし もういいかい、まあだだよ。

ようぞう もういいかい、まあだだよ。〈読む〉

Tk どこが違うかな、まさとし君と、ようぞう君では、

みえ あのね、まさとし君の方は、「いいかい」と書

いているけど、ようぞう君の方はね、もも：もい

かって書いてある。

C まさとし君の方はね、まだだよ。ともみちゃん

の方は、「あ」がある。

Tk ともみちゃん、読んでもらおう。言ってみて。

〈ともみ、読む〉

Tk 本ただね。他にないかな。

雅子 まさとし君は、「う」がついているけれど、よ

うぞう君は、「う」がついていない。

Tu ともみちゃん、書いたとおりに歌って下さい。

ともみ もういいかい、まあだだよ。

〈ともみ、歌う〉

Tu 読んで下さい。

ともみ もういいかい、まあだだよ。

へともみ、歌ってしまおう

Tu あ？読んで下さい。

ともみ もう……。〈読めない〉

Tu おじさんが読むと、こう読めるよ。「もいかい」って読めるけど、ともみちゃん、このとおりに読んで。

ともみ も、い、か、い。

Tu 「もいかい」だね。ともみちゃんは、歌ったのと

書いたのとは、違ったね。ようぞう君、歌ってみて。ようぞう もういいかい、まあだだよ。

へようぞう 歌う

Tu こんにちは、読んで下さい。

ようぞう もういいかい……。〈読めない〉

Tu おじさん読むよ。もいかい、まあだだよ。

ようぞう もういいかい、まあだだよ。

（ようぞう君は、自分の書いたことばに、自分の意識がいっていない。ということばは、文字では、そう書いても、自分の心の中では、そのうたのとおり歌っているのである。けれど、文字に書きあらわせない部分を、自分の感情でうめているので、文字でそのうたに近づこうという意識は、全くないといっている）

Tu おじさん読むとね。「まあだだよ」って読める。今ようぞう君が読んだのは、「まあだだよ」って聞こえたよ。

ようぞう君も、歌っているのと、書いたのは、違っていたね。

へようぞう、笑う

（Tuに指摘されて、笑う。人に指摘され、やっと、自分の書いた文字が、自分の歌ったうたと違うことに、気づいたということである）

Tu まさとし君は？

まさとし もういいかい、まあだだよ。〈歌う〉

Tu 今は、歌ったのね。今度は、読んで下さい。

まさとし もういいかい、まあだだよ。〈読む〉

Tu 「もういいかい」のところは、書けていたね。でも、「まあだだよ」のところは、違っていたね。書いていたのと、歌っていたのと、違っているね。今日は、どちらでも書けるようにしたいの。どちらで書いたかわかるように、書いて欲しいんですよ。

Tk 書いたのと、耳で聞いたのと、ずいぶん違いますね。それじゃあね。今度はね、先生が、これから、

こちらの言い方をします。

へ「もういいかい」の方を示す

だから、みんなは、こつちをこたえて下さい。

へ「まあだだよ」を示す

Tk もういいかい。〈普通に〉

C まあーだだよ。〈普通に〉

Tk もういいかい。〈おこったように〉

C まあだだよ。〈おこったように〉

Tk もーいーかい。〈間のびして〉

C まあーだだよ。〈間のびして〉

（ここは、とても自然に出来た。音声に音声が、呼応しているということが、よくわかった。ここで、私は私自身、音声言語の中に生きている子どもを見る思いがした。もうすこし、音の遊びとして、色々な呼応を行なえば、もっともっと、子どもたちに、今日の授業のねらいが、わかっただらうにと後悔している）

Tk こちらも変わると、こつちも変わるね。

へ「もういいかい」と「まあだだよ」を示して

C うん。へうなづく

（指導案では、「よつ」といでの意味を聞くことにな

っていたが、意味は、後の「くつ」がなる「でやること」にして、ここでは省いた）

Tk 今度は、「くつ」がなる。今度は、最後です。がんばってね。

へ「くつ」がなる「のレコードに合わせて、二回、歌う」

Ti 今のうた、最初のところだけ歌いましょう。

へオルガンに合わせて歌う

Ti もう、みんな、歌えるだらうけれど、おぼえちゃってね。

へみんな、おぼえて歌う

Tk さあ、ここを見て下さい。

おおてえてえ、つうなあいいでえ、のおみいちい
をを、ゆうけえばあ

へ右の短冊を示す

Tk 今度は、先生が書いてあったの。

へ子どもたち、てんでに、さかんに読んでいる

C なんだ、こりゃあ……

Tk みんなで、読んでもらおう。

へ子どもたち、一緒に読む

Tk これは、どつちの書き方をしているの？ 歌っているように書いているの？ 読んでいるように書いているの？

C 読んでる。

C ちがう。

C 歌っているように。

Tk もう一回、読んでみよう。

へ子どもたち、全員で読む

Tk どうですか、読んでいるみたい？ 歌っているみたい？

C 歌ってた。

Tk 歌ってみたいですね。

(前に、読んでもらおうと言っておいて、これは、歌っているように書いてあるのか、読んでいるように書いているのかを問うのは、あまり良い発問ではなかったように思う。今までのと、異なる構えを、持つてくるということから、考え合わせると、今まで、子どもたちが答えてきた答え方の二通りを示し、どちらか、といった方が、良かったように思う。ex 直子式か、永井式か、そうすると、歌ったように、そのまま書く方は、どちらだったかと問う、今度は、歌ったまま書きました、という具合に行なった方が、子どもたちには、わかり易かったように思った)

Tu おじさん、読んでみます。おおてえてえ。

へ一本調子に読む

へ子どもたち、爆笑する

Tu おじさん、読みました。さあ、読める人書いてあるように、読んで下さい。

Tm じゃ、佐藤君。

佐藤 おおてえてえ、つうなあいいでえ。

Tu うまいぞ。

佐藤 つうなあいいでえ。へ少し、こまり一分間位だまるのおみいちい：おお：ゆうけえ：ばあ：。

へここは、わかりにくい、時間がかかる

(「のおみいちい：」から、大変苦勞して読む。これは、やはり、何を書いてあるのか、わからないから、そのまま読むのが、困難になったのだろう。ここは、予想通りだった)

Tu 本間に、歌ったとおりに書くと、今度は何の事かわかんなくなっちゃうね。わからないね。

Tk だから、なんだか、わからないと、こまるので、

今度は、読んでわかるように、直して下さい。「おお、てえてえ」って、何？

C おおて。

Tk 何がなくなった。へ文字を示して

C 「お」と「え」。

Tk そう、こういうふうに、直して欲しいの。

板書

おおてえてえ
××××××

Tk 何のこと？

C おおて。

永井 手のこと。へ手をひらひらさせる

Tk さあ、他のところも、直してもらいましょう。

Tk 永井君できるね。雅子ちゃんは、どうかな？

永井 つないで。

Tk うん、何がなくなった？

村上 「う」と「あ」と、「い」と「え」。

Tk どうですか。

板書

つうなあいいでえ
××××××

C よいです。

Tk いいですね。「つないで」って、どういうこと？ちょっと、やってみせて。へみんなとなりの人と手をつなぐそうね。今度は、「のおみいちい」の方を、直して書いて下さい。歌わないように、直して下さい。

Tm こちらだけ、「のおみいちいを：」。さあ、わかるように、書いて下さい。

へ各自、短冊に書く

Tu さあ、先生方に、みてもらおう。さあ、最後だよ。

がんばって。

Tu みんな、できたかな。簡単な。

C かんたん、かんたん。

Tk みんなで、直しましょう。まだ、途中の人は、考えながら、やって下さい。

C へ全員で、の、み、ち、を、ゆう、け、ば。

Tk 「う」は、どうなるの？

C 知らない。

Tk そう。知らないところは、消していっちゃあうね。

へ消す読んでみましょう。

のおみいちいをおゆうけえばあ
××××××××××××

C のみちを ゆけば。

Tk この、直した青いところは、どういう意味かな？

へ傍線を引いたところの文字

梶川 いるっていうしるし。

Tk どこが、いるっていうしるしなのかな。さっきは、こちらの「おおて」は、意味がわかったね。おおてをつないでなんだから：。もう一回、読んでみよう。

C のみちをゆけば：。

永井 わかったあーあのね。ねえ、道を行くってこと。

Tk いいですか。こうすればわかるね。青字で書くという意味がわかってくる。こういうのいれると、歌っているように書ける。へ×印の字を指して

今日は、二通りの勉強をしましたね。

Tu 永井君、わかったね。永井君、すごかったね。それで、他の人も、わかったね。じゃ、永井君おじさんの問題わかるかな。この「の」は何？のみ



ちをゆけばっていったら、道を行くんだったら、じゃ、この「の」は、何？へ「の」を示す

C 「の」？

Tu 「の」って何？

C わかる。

Tu のみちをゆけばは、別府の温泉の道を行くんじゃないんだね。のみちを行けばの「の」はなんだろう。

へ六人、挙手

六人だね。ふえた、ふえた、またふえたがんばれ。(のみちというのは、野の道という意味であることが、わかりにくいのだろう。音声だけでは、とらえにくい

ものだからだろう)

永井 おじさん、このやろう。へ必死に手をあげる

Tm 太一君。

太一 林の道。

C ちがうよ、ちがう。

Tu 温泉の道じゃあなくて、林の道になったね。えらいね。林の道だったら、おじさんだったら、「はやし道」ってやるなあ。「の」って何？

永井 あのね、せまい道を行く。

Tu あのね、じゃあ、おじさんね。この机の間、せまいね。おじさんが、ここを行けばのみちをゆくことになるの？

C ちがう。

雅子 野原のこと。

Tu どうでしょう。野原の道ですって、野道って、どうでしょう。いいと思う人。

C はい。

Tu 野原の道って、広い？せまい？

C ひろい。

Tu 野原の道って広い。そうかね。そう？野原って、ずっと全部道？野原は広いけど、そこについている道は、せまいね。そのことを、いったんだね。だから、そのことを永井君は、いったんだね。太一君はその道には、林がたくさんあるから、林の中の道っていったんだと思うんだ。きつと、そうだと思うんだ。

(のみちというのは、野原の道というイメージが、子どもたちに出てこない、わからないことばである。ともあれ、林の道とか、せまい道とかは、野に結びつく。イメージからさぐった子どもたちの必死の姿が、よく出ているように思えた)

佐藤 僕だって、せまい道っていった。

Tu そうか、えらいな。

Tk おもしろかった。へゆっくりと言う

C 先生が、ふざけているから、おもしろかった。

Tk おもしろかった？へ早口に聞く

C おもしろかった。へ早口に答える

Tk 最後に、うたを歌って、おしまいにしましょう。

へ「くつがなる」を合唱する

(音、ことば、意味、そして文字が、いかに子どもたちの中に、雑居されているかが、よくわかった。しかし、また改めて、音と言語の中に、子どもたちが住んでいるんだということも、痛感した。それは、いくら自分で文字化したとしても、やっぱり文字化であり、自分の音はちゃんと、自分の頭の中、いや、心の中になっっているからである。今まで私たちは、このなっている音を無視して、文字の方ばかりに、目がいきすぎているのではないかと、改めて思う。今回はその顕著なものとして、歌を材料としたが、本来、子どもたちは、当然のことながら、概念の世界ではなく音と言語の中に住んでいるのだと思う。だからこそ、あの応対に子どもたちは見事に呼応できたのだと思う。あれは「まあーだよ」という文字でもなんでもない。音声をききつけて、音声に対して子どもたちが答えたことである。この音声をききつけたということが、いかに音声に対して敏感であるかということがよくわかる。ことばの内容より、そのことばの裏にある音声、音声に伴う気分を子どもたちは鋭い感覚でききつけていることをわすれてはならないと思った)

へTm 森田ミサ子(大分・別府市立南小・教諭)

Tk 小泉節子・Ti 石本 栄・Tu 上原輝男教授